

「持続可能な観光のためのビジネス標準
ホワイトペーパー」 5. 評価システム
に関する検討 その2

2023. 11. 16.

JEC観光検討会

1. 前回観光部会(2023.10.19.)の経過

《問題提起》

評価システムの目的(狙い):「購入者はEPsを購入する際、持続可能な観光を識別すること」としたとき、

1) 実践者(自己評価者)間の取り組み差異により‘購入者が持続可能な観光を識別する’には、実施事項は評価情報としては情報量が少ないのではないか

2) 「ビジネス標準」に記載の実施項目の表記は、実践者(自己評価者)間の評価判断に曖昧さを生じる恐れがないか

《代替案》

(案1) 実践者(自己評価者)に、実施事項を補完する可能な限り多くの情報(例示列挙)を予め提示し、実践者(自己評価者)は、これらを参考に取り組みの自己評価をする

(案2) 実践者(自己評価者)は、夫々に取り組みを自己評価し、それを基に評価組織(JTREC?)側に予め定めた評価基準に照らして評価を確定する

【観光部会で戴いた意見】

- 評価基準はグローバルに公平であること 地域、規模等の特情を反映すること
- 評価基準は具体的すればするほど(評価が)難しくなること
- 評価事項を実践することと全体効果を挙げることのバランスが重要であること 何を知りたいかを再整理すること
- GSTCとの相違点を明確に示すこと(大野専門官)
- 評価はCEFACTの特徴であるCMMIに拠ること レベル3の評価事項を確定することが基本
- 評価基準は段階的評価が明示的であること 段階向上の構想が理解されているかが肝要
- 評価フォーマットを定めるべきこと(ISO参照)
- 評価基準の運用について、概略フレームを作りCEFACT委員との調整を経て完成すること

2. 「評価システム」検討その2の方向性

《評価方法に関するご意見のキーワード》

○グローバル

○労力対効果バランス

○CMMI手法

○GSTCとの差別化

(参考)CMMI (Capability Maturity Model® Integration:『能力成熟度モデル統合』) における成熟度レベル(例)

「ビジネス標準」 5. 評価システム

レベル 3 – 定義されたレベル

組織で承認された標準実行プロセスが確立されている。SDGsの認識は十分にあり、その中での持続可能な観光の優先項目に関しては優先順位を付けて配慮され、そのいくつかは実行されている。

開発のためのCMMI® 1.3 版(CMU/SEI-2010-TR-033)

レベル 3 – 定義されたレベル

標準プロセスをテーラリングしたプロセスに従って管理されている

プロセス:与えられた目的を達成するために実行される一連の手段 (≡仕組み)

テーラリング(tailoring):業務遂行やプロジェクトマネジメントの基本として定めた標準を手直して実用的な標準を作成、実行すること

(内容)

・組織の(SDGsに関する)標準プロセスが存在し、継続して改善かつ適宜手直して活用されている

・(ターゲット単位の?)実用的な標準、手順、ツール、手法、等が整備され、関係組織で活用されている

【検討その2の方向性】

○実践者(自己評価者)の発信情報を可能な限り活用する ⇒ 実践者実施事項の解析(形態素解析)

○CMMIの観光への適用条件を適応させる(‘プロセス(≡仕組み)の改善’が主)

⇒ 実践者の実施事項の解析(‘現時点の取り組み’が主)に対する敷衍方策検討

○実践者(自己評価者)による評価の公平性を担保する ⇒ 形態素解析の向上、ヒアリング、等

3. 「評価システム」検討その2

3-1. SDGsターゲットと「ビジネス標準」実施事項 4.2宿泊施設（一部抜粋）

SDGs		「ビジネス標準」 4.2宿泊施設
ゴール	ターゲット	実施事項
6. 安全な水とトイレを世界中に 一すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する	6.1 2030年までに、全ての人の、安全で安価な飲料水の普遍的かつ衡平なアクセスを達成する	6.1 水リスク評価の計画がある
	6.3 2030年までに、汚染の減少、投棄の廃絶と有害な化学物質の放出の最小化、未処理の排水の割合半減及び再生利用と安全な再利用の世界的規模で大幅に増加させることにより、水質を改善する	6.3 下水処理を実行する
	6.4 2030年までに、全セクターにおいて水利用の効率を大幅に改善し、淡水の持続可能な採取及び供給を確保し水不足に対処するとともに、水不足に悩む人々の数を大幅に減少させる	6.4 持続可能な真水の供給とリサイクルを確保する
		6.4 水の消費量を最小限に抑えるために節水装置を使用する 例え、節水シャワーノズルとトイレの使用
7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに 一すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる	7.2 再生可能資源の利用を促進し、さらに、総エネルギー供給に占める再生可能エネルギーの割合を監視、管理する 例え、屋上のソーラーパネル
		7.3 総エネルギー使用量を監視し、管理する
	7.3 2030年までに、世界全体のエネルギー効率の改善率を倍増させる	7.3 空気が過度に換気されず、冷却に過剰なエネルギーが使用されていないことを保証する空気循環装置を使用する 7.3 エネルギー使用を最小限に抑える機器を使う慣行を実施する 例え、LEDライトを使用して電力消費を削減し、可能な限り「Energy Star」の電化製品を購入する

3. 「評価システム」検討その2

3-2. CMMIの成熟度レベル (CMMI-DEV のプロセス領域およびそれらに関連づけられた区分と成熟度レベルの一覧)

プロセス領域	区分	成熟度レベル
構成管理 (CM)	支援	2
測定と分析 (MA)	支援	2
プロジェクトの監視と制御 (PMC)	プロジェクト管理	2
プロジェクト計画策定 (PP)	プロジェクト管理	2
プロセスと成果物の品質保証 (PPQA)	支援	2
要件管理 (REQM)	プロジェクト管理	2
供給者合意管理 (SAM)	プロジェクト管理	2
決定分析と解決 (DAR)	支援	3
統合プロジェクト管理 (IPM)	プロジェクト管理	3
組織プロセス定義 (OPD)	プロセス管理	3
組織プロセス重視 (OPF)	プロセス管理	3
組織トレーニング (OT)	プロセス管理	3
成果物統合 (PI)	エンジニアリング	3
要件開発 (RD)	エンジニアリング	3
リスク管理 (RSKM)	プロジェクト管理	3
技術解 (TS)	エンジニアリング	3
妥当性確認 (VAL)	エンジニアリング	3
検証 (VER)	エンジニアリング	3
組織プロセス実績 (OPP)	プロセス管理	4
定量的プロジェクト管理 (QPM)	プロジェクト管理	4
原因分析と解決 (CAR)	支援	5
組織実績管理 (OPM)	プロセス管理	5

成熟度レベル 4 を達成することは、成熟度レベル 2、3、および 4 におけるすべてのプロセス領域が実装されることを必然的に含む。同様に、成熟度レベル 5 を達成することは、成熟度レベル 2、3、4、および 5 におけるすべてのプロセス領域が実装されることを必然的に含む。

3. 「評価システム」検討その2

3-3. CMMIの評価指標例 (CMMI-DEV のプロセス領域およびそれらに関連づけられた区分と成熟度レベルの一覧)

『組織プロセス定義(OPD)』 **成熟度レベル 3** のプロセス管理のプロセス領域

SG (固有ゴール) 1 組織プロセス資産を確立する - 一連の組織プロセス資産が確立され保守されている。

SP (固有プラクティス) 1.1 標準プロセス群を確立する - 「組織の標準プロセス群の集合」を確立し保守する。

作業成果物の例

1. 「組織の標準プロセス群の集合」

サブプラクティス

1. 各標準プロセスを、プロセスを理解し記述するのに必要な詳細さで、その構成要素となるプロセス要素に分解する

2. 各プロセス要素の重要な属性を明記する

重要な属性の例:

• プロセスの役割	• 適用される標準	• 適用される手順、手法、ツール、および資源	
• プロセス実績の目標	• 開始基準	• 入力	• 検証の特徴 (例えば、ピアレビュー)
• 出力	• インタフェース	• 終了基準	• 成果物およびプロセスの尺度

3. プロセス要素間の関係を明記する

4. 「組織の標準プロセス群の集合」が、適用される方針、標準、およびモデルに忠実に従うようにする

5. 「組織の標準プロセス群の集合」が「組織のプロセスニーズおよび目標」を満たすようにする

6. 「組織の標準プロセス群の集合」に含まれるプロセスの間で、適切な統合が実現されているようにする

7. 「組織の標準プロセス群の集合」を文書化する

8. 「組織の標準プロセス群の集合」に対し、ピアレビューを実施する

9. 必要に応じて「組織の標準プロセス群の集合」を改訂する

SP 1.2 ライフサイクルモデルの記述を確立する - 組織内での使用が承認されているライフサイクルモデルの記述を確立し保守する。

・
・

「開発のためのCMMI® 1.3 版」より引用

3. 「評価システム」検討その2

3-3. CMMIの評価指標例 (CMMI-DEV のプロセス領域およびそれらに関連づけられた区分と成熟度レベルの一覧)

『組織プロセス定義(OPD)』 **成熟度レベル 3** のプロセス管理のプロセス領域

SG (固有ゴール) 1 組織プロセス資産を確立する - 一連の組織プロセス資産が確立され保守されている。

SP (固有プラクティス) 1.1 標準プロセス群を確立する - 「組織の標準プロセス群の集合」を確立し保守する。

作業成果物の例

1. 「組織の標準プロセス群の集合」

サブプラクティス

1. 各標準プロセスを、プロセスを理解し記述するのに必要な詳細さで、その構成要素となるプロセス要素に分解する
2. 各プロセス要素の重要な属性を明記する

重要な属性の例:

・プロセスの役割	・適用される標準	・適用される手順、手法、ツール、および資源	
・プロセス実績の目標	・開始基準	・入力	・検証の特徴 (例えば、ピアレビュー)
・出力	・インタフェース	・終了基準	・成果物およびプロセスの尺度

3. プロセス要素間の関係を明記する

4. 「組織の標準プロセス群の集合」が、適用される方針、標準、およびモデルに

5. 「組織の標準プロセス群の集合」が「組織のプロセスニーズおよび目標」を満

6. 「組織の標準プロセス群の集合」に含まれるプロセスの間で、適切な統合が実

7. 「組織の標準プロセス群の集合」を文書化する

8. 「組織の標準プロセス群の集合」に対し、ピアレビューを実施する

9. 必要に応じて「組織の標準プロセス群の集合」を改訂する

SP 1.2 ライフサイクルモデルの記述を確立する - 組織内での使用が承認されているライフサイクルモデルの【**これからの課題**】。

・
・

「開発のためのCMMI® 1.3 版」より引用

「CMMI プロセス領域」を参考に
「ビジネス標準」の評価基準(評価
項目と成熟度レベル)を策定する
※有識者の知見の集約、生成AI
の活用等を検討する

3. 「評価システム」検討その2

3-4. 評価システムのイメージ(たたき台)

